

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 1	理念・目的
------	-------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部（学科）・研究科（専攻）の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体（例えば学生便覧やホームページなど）との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員（教職員および学生）への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施して、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0101 学部・学科の教育研究上の目的および育成すべき技術者像は大学・工学部ホームページ、学生便覧、工学部履修ガイドブックに、「あてになる技術者の育成」と定められており、その内容は大学の基本理念、使命、教育目的を反映している [0101a] [0101b] [0101c p. ②] [0101d pp. 1-7]。</p> <p>0102 教育研究上の目的および育成すべき技術者像はホームページ、学生便覧、工学部履修ガイドブックにより、教職員および学生に周知し、社会に対して公表している [0101a] [0101b] [0101c p. ②] [0101d pp. 1-7]。</p> <p>0101, 0102 自己点検として毎年、学生便覧、工学部履修ガイドブック等の内容に関する検証、見直しを各学科会議にて実施している [0102a]。</p>

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0101	工学部履修ガイドブックを作成し、「あてになる技術者の育成」について説明している [0101d pp. 1-7]。
項目 No. 0102	同上。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0102	大学の基本理念・使命・教育目的と学部・学科の特色、指導方針及び学習・教育到達目標との関連性をよりわかり易く周知する必要がある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0101	ホームページ、学生便覧、履修ガイドブックの点検、見直し。
0102	学期毎のオリエンテーション等における学生への継続的な周知の推進。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
No. 0102	大学の基本理念・使命・教育目的と学部・学科の特色、指導方針及び学習・教育到達目標との関連性についてのよりわかり易い周知と、学期毎のオリエンテーション等における学生への継続的な周知の推進。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(5)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203 内部質保証のための全学的な方針に基づき[0203a]、大学全体としての自己点検・評価[0203b]、工学研究科・専攻における自己点検・評価、および個々の教職員による自己点検・評価[0203c]を行っているが、各専攻内における内部質保証システムの在り方についての議論は十分に進んでいない。	
0203 「外部評価委員会」、「アドバイザーボード会議」などの外部評価に加え、非常勤講師との懇談会、卒業生・就職先企業へのアンケート等を通じて、内部質保証システムを構築するとともに、教育改善システムに反映している[0203d] [0203e] [0203f] [0203g]。	
0203 都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、外部評価として JABEE による技術者教育プログラムの認定を受けており、2018 年度に継続審査を受審し、6 年毎に認定を受けている [0203h] [0203i] [0203j] [0203k] 。	
0203 学部・学科において、毎年、大学の自己点検・評価委員会規程に基づき自己点検を行っている [0203l]。	
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0203	(建築学科)外部評価委員会の開催 [0203a]
項目 No. 0203	(応用化学科)学科独自のアドバイザーボード会議開催 [0203b]
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	JABEE 認定学科のみならず、全学科における内部質保証システムの構築[0203d]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	* 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	--------------------------------------------

0203 都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、JABEE による技術者教育プログラムの認定を受けることにより、教育システムの自己点検・評価を行っている [0203e] [0203f] [0203g] [0203h]。0203 この自己点検・評価業務がまさに改善の取り組みであり、ピアレビュー委員会において、組織単位の評価を受けることとなる。評価結果を受けて、改善策を策定し、実施する予定である。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0203	全学科における内部質保証システムの確立と教育改善システムの継続的な実施
0203	学部・学科での定期的、継続的な自己点検・評価の実施とそれに基づく PDCA サイクルの運用

2022 年度（対象：2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 4	教育課程・学習成果（1）
------	--------------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針 (DP) を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針 (DP) の適切な設定 (授与する学位ごと) を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針 (DP) の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針 (CP) を定めて、公表していますか。	(1) 授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針 (DP) と教育課程編成・実施の方針 (CP) は適切な連関性となっていますか。 ・「学位授与の方針 (DP)」⇔「教育課程の編成・実施の方針 (CP)」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針 (CP) に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針 (CP) と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。(ナンバリング、カリキュラムマップ)	A
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	卒業認定・学位授与の方針（DP）には、指導方針や養成する人物像が明記されており、各学科会議にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [0401a] [0101b]。
0402	教育課程の編成・実施方針（CP）には、教育内容、方法、評価法などが明記されており、各学科会議にて検討し、原案を作成後、教授会において学部内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて学部間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [0401a] [0101b]。
0403	<ul style="list-style-type: none"> 学部、各学科の教育理念及び教育目標と卒業要件・教育課程の関連性などは学部独自で発行している工学部履修ガイドブックに明記し、在学生に示している（0101d）。 科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリング [0403a] を行うとともに、カリキュラムマップや教育課程系統図によって教育課程の体系やコースの意味を明確にしている [0403b]。 教育課程系統図にあるように、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、各学科専門教育科目を体系的に編成し、専門基礎科目を低学年に配置することで、高大接続に配慮している [0101c pp. 18, 31, 42, 54, 66, 75, 88, 96]。また、一部の学科においては、初年次教育のスタートアップセミナーにおいて学科教育を題材にした少人数制ゼミ形式の実施や、遠隔授業等に対応できるよう ICT 教育を導入するなど独自の取り組みを行っている [0403c]。 講義形式に加え、学生が主体的に行う演習、実験、実習、製図等を適切に組み合わせた授業を学部全体において実施している [0101c pp. 18, 31, 42, 54, 66, 75, 88, 96]。 カリキュラムの適切性は各学科会議において検討され、教育課程の変更が必要な場合は、工学部教務委員会で審議されている [0403d]。なお、DP・CP に即した教育課程であるかどうかについて、定期的に見直しする機会を設けていないため、今後継続的に見直しをする体制づくりが必要である。 都市建設工学科、建築学科、応用化学科においては、外部評価（JABEE）審査を受審しており、自己点検・評価が適切であることが確認される仕組みとなっている。また、各学期のはじめに、学生による目標の達成度の確認を実施し、適切な科目履修を指導している [0403e]。 社会的および職業的自立をするうえで資格取得が非常に重要としており、各学科において、学科教育科目に関連の深い資格の受験を奨励している。また一部の学科では、これを支援する科目群を用意している [0101c pp. 61-65]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
No. 0403	工学部履修ガイドブックを学部独自で発行し、各学科が示す学習到達目標と関連付けた学科教育課程を体系的に示し、在学生に周知している [0101 d]。
No. 0403	スタートアップセミナーにおける学科独自シラバスの導入 [0403c]。(EA)

No. 0403	各学期のはじめの学生による目標達成度の確認 [0403e]。(EC)
No. 0403	資格取得を支援する科目群の配置 [0101c pp. 61-65]。(EP)
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
No. 0401 No. 0402 No. 0403	DP、CP に即した各学科教育課程の定期的および継続的な見直し。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0403	初年次におけるリモート授業、LMS、CAD等のICT教育のさらなる改善を検討し、その一環として、2022年度からスタートアップセミナーにおいて、ICT教育の授業を新規に設けた [0403c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No. 0401 No. 0402 No. 0403	各学科の教育課程がそれぞれの DP、CP に即した内容になっているかを学部教務委員会などの場で定期的に確認する機会を設ける。

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1)各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	A
		(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2)既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	B

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4)卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。	A
		(7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(9)適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
<p>0404</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年に履修単位数の上限を設け、学生便覧において明確に示している [0101a p.11]。学生が無理な履修計画をしないよう、学科毎に進級要件が規定されており、留年者や退学者の状況を確認しながら、定期的な見直しを行っている [0101a pp. 11, 23, 34, 45, 57, 69, 78, 90]。 シラバスには「カリキュラムの中での位置付け」、「身につく基礎力」、「授業の趣旨」、「具体的達成目標」、「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が必須項目として記載されており、「授業計画」は授業の各回の具体的内容と予習・復習の指示を含んでいる [0404a]。毎年度末に各学科専任教員によるシラバスの第三者点検を実施しており、各項目が DP、CP などにふさわしいか否かを判断し、不備がある場合には修正を求めている [0404b]。 シラバスの記載事項と授業内容の整合性については「学生による授業評価」で項目が設定されており、学部 FD 委員会において、学生の回答結果を基に各学科においてシラバスと授業内容の整合性について再検討するよう依頼されている [0404c]。 魅力ある授業づくりへの取り組みとして、学生による授業評価・教員による授業自己評価を行っている [0404d]。また、定期的に関催される FD フォーラム・講演会への参加を推奨している [0404e]。 教育活動顕彰制度受賞者による学部 FD 講演会を開催し、魅力ある授業づくりの手法やテクニックについて、情報共有を行っている [0404f]。 多くの学科で実践・体験型授業を導入しており、学生の主体的参加を促す授業内容を多く取り入れている [0404g]。 授業形態に配慮し、受講者数や習熟度に応じたクラス編成を一部の科目で取り入れている。 各学期の開始前には学年毎の履修のオリエンテーションを実施しており、履修に関する個別相談の時間を設けている [0404h]。 各学科において教務委員を選出し学部教務委員会を開催し、全学の教務委員会依頼事項の各学科への展開および学部内検討、各学科教育課程変更の検討などを重点的に議論している [0403d]。 <p>0405</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスに明記された「達成目標」「成績評価方法」に基づき、成績評価を実施している。 都市建設工学科・建築学科・応用化学科においては外部評価（JABEE）審査を定期的に受審しており、すべての学科専門教育科目における期末試験、レポート等の答案および成績評価は、学科の JABEE 準備室に保管し所属教員が随時閲覧できるようにすることで透明性を保つ努力をしている。 複数担当者による授業科目においては、担当者全員で成績を共有し、その客観性、厳格性を保つよう努めている [0405a] が、単独で担当する科目については、各担当教員が厳格に成績評価しているものの、すべての科目において組織的客観性と持って相互にチェックを行うことは非常に困難であり、この点は課題である。 資格保持者に対する単位認定および 3 年次編入生に対する単位の読み替えは規程に照らして行われている [0101c pp. 60, 380-381]。また、オハイオ大学長期研修プログラム参加者の単位認定に関しても学部内規程に照らして行われている [0405b]。

- 卒業要件は明確に規定されており、中部大学ホームページと学生便覧に明示されている [0101c pp. 11, 23, 34, 45, 57, 69, 78, 90]。学位論文審査基準は、卒業研究のシラバスに「成績評価方法」、「成績評価基準」が明記されており、主査および副査による厳密な審査が行われている [0405c]。また、一部の学科においては様式と審査基準を設けている [0405d]。
- 卒業論文の審査基準はルーブリック等で明確に規定している学科もあり、その取組と手法について、教授会において紹介する機会を設けた。2021 年度を通じて卒業研究における評価項目、達成度レベル等の明確化についての議論を継続し、今後学部自己点検・評価委員会などでまとめる予定となっている [0405e]。
- 卒業研究に関しては、多くの学科では、発表会を開催し、複数の教員で内容を審査する。発表会は一部を除き公開であり、透明性・客観性も担保している。また、卒業論文の成績評価報告は指導教員による成績評価（案）を学科主任がとりまとめ、学科教員全体に開示し報告前に意見を申し立てることができる仕組みを取り公平性・客観性を担保する努力をしている [0405f]。
- 学位授与に際しては、教務支援課より提示された事前審査を基に各学科教室会議で各学生の単位修得状況を確認した上で、教授会において厳格に審議し、卒業を認定している [0405g]。

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	定期的で開催される FD フォーラム・講演会への参加の励行 [0404e]。
項目 No. 0404	教育活動顕彰制度受賞者による学部 FD 講演会を開催し、新しい授業手法などの情報共有の機会を設ける [0404f]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0405	単位の組織的客観性を持った認定方法の構築
項目 No. 0405	卒業研究評価に対する基準の明文化
項目 No. 0405	シラバスに記載の評価方法を遵守していることの組織的確認体制が不十分
項目 No. 0405	学生による授業評価において、十分な人数の学生から回答が得られていない

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
404	<ul style="list-style-type: none"> FD 講演会等の FD 活動への積極的参加 [0404e]。 シラバスと実際の授業の整合性は、学期末毎に大学全体で実施の受講生への授業評価に項目が追加されることにより点検できるようになった。 学期末にシラバスの第三者点検を行い、授業内容とシラバスとの整合性を確保、および評価方法の客観性・厳格性を確認している [0404b]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0404	学科教員による無作為な授業参観実施による授業内容とシラバスの整合性の組織的チェックをおこなう体制の導入。
0405	単位認定に対する組織的確認方法の構築（EL）
0405	卒業研究評価に対する基準を、各学科において明文化するための取り組みを学部教務委員会などで行う。

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・ 学習成果を測るための評価方法や評価指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの）	A
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・ 学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・ アセスメント・テスト ・ ルーブリックを活用した測定 ・ 学習成果の測定を目的とした学生調査 ・ 卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・ 学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0406(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の学習成果は、100 点満点、S, A, B, C 等、GPA などの指標により点数化される [0101c pp. 4-5]。教員は所属学科の学生の各科目の成績（S, A, B, C 等）と全科目平均の GPA は、Tora-net を通じて確認することができる [0406a]。ただし、「IR データ」の定義やそれに対する認識が定まっておらず、学生の学習成果を測るための学部として統一された指標は定めていない。専門的な職業を担うのに必要な能力の修得状況の指標として一級建築士などの資格の指定科目認定 [0406b] を参考とし、必要に応じて学

科のカリキュラム、成績評価、卒業要件が適正に機能しているかを見直している。

0406(2)

- ・ 進級状況に関しては、年度末の学科会議、および教授会の資料により確認・把握している [0406c]。卒業研究に関しては、発表会を開催し、学修の効果を把握している [0406d]。指導教員による個人面談を実施して学生の状況を把握、指導する仕組みが確立されている [0406e]。いずれにせよ組織的な分析・検討は行っていないのが現状である。
- ・ シラバスに各科目における、期末テスト、宿題、授業態度等の評価対象と、全体の評価に対するその割合等を記載し [0406f]、その基準に基づき評価を行っている。多くの科目で行う期末テストは正誤が明確で点数化が容易にできる。卒業研究等の点数化に個人差が出やすい科目においてはルーブリックを定めている学科もある [0406g]。学生自身による達成度評価アンケートや、卒業生に対するアンケート（卒業時アンケート）を実施したり、就職先や関連企業に勤務する卒業生の非常勤講師による授業や外部講師懇談会を行ったりして、結果を教室会議で報告・共有し、次年度の改善に役立てている学科もある [0406h] [0406i]。

0406 (3)

- ・ 在学中の学習成果の評価は、卒業要件を満たし、学科の定めた学習・教育到達目標を達成することであり、これらは（一社）日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準項目を満たしている [0406j]。また、卒業時においては卒業論文および発表プレゼンテーションにおいて学会での発表リストを明示させている。卒業論文については、卒業論文審査委員会を設置し研究分野別に全提出論文の査読、評価の審議を実施、これを卒業研究の成績に反映させている [0406k]。

0407

- ・ 日常的・組織的な IR システム・機能はまだ確立されてはいないが、定期的に、教育課程およびその内容、方法は学科会議や学科によっては独自の FD 委員会や学科所属教員全員が参加する学科教務会議にてその時代の要請に沿う方向で適切に改正している [0407a]。「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」を実施し、授業の点検評価と改善に取り組んでいる [0404b]。
- ・ 定期的な外部点検・評価である JABEE 認定は、自己点検と改善を行うことが前提となっており、JABEE 認定を受けている都市建設工学科、建築学科、応用化学科では、そうした仕組みが確立されている [0203a]。また、アドバイザーボード会議も、評価・改善の仕組みの一つである。 [0203b]
- ・ 各教員が毎年度初頭に「教員活動重点目標・自己評価シート」を提出して当該年度の重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検する。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これを学部長・学長が点検する [0407b]。
- ・ 一部の研究室において、実験・演習を伴う教育プログラムの PDCA サイクルに関する卒業研究が行われている [0407c]。
- ・ 演習授業における実践を含む情報系人材育成のために、教育フレームワークに関する研究に対して科研費によるサポートを受けている [0407d]。
- ・ 教育課程の変更や、教育課程変更後の具体的実施方法については、学科会議で起案し、学科内のカリキュラム検討会議で具体案を検討し、学科会議でその案について審議を行うという手順で進めている [0407a]

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの

項目 No. 0406	卒業研究・創成科目におけるルーブリック評価の導入 [0406g] (EC)
項目 No. 0406	学科独自のポートフォリオを作成し、学期ごとにすべての学生に対して各指導教員が個人面談を実施し、状況把握を行っている [0406e] (EK)
項目 No. 0406	就職先や関連企業勤務の非常勤講師陣 [0406i]。(EA)
項目 No. 0407	一級建築士 指定科目に該当する開講科目一覧 (2021 年度入学) [0406b] (EA)
項目 No. 0407	日本技術者教育認定機構による教育プログラム認定審査結果報告 [0203g] (EA)
項目 No. 0406	学科独自の「学習達成度評価アンケート」、「卒業時アンケート」を学生に対して実施し、各授業の改善に活かす取り組みを行っている [0406h][0406i]。(EK)
項目 No. 0407	一部の研究室において、実験・演習を伴う教育プログラムの PDCA サイクルに関する卒業研究が行われており、授業内容改善のためのデータとして用いられている [0407c]。(EP)
項目 No. 0407	演習授業における実践を含む情報系人材育成のために教育フレームワークに関する研究に対して科研費によるサポートを受けている [0407d]。(EP)
項目 No. 0407	学科独自の外部評価である「アドバイザーボード会議」を常設し、外部委員から意見を

	伺っている [0203b]。(EK)
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0406	学習成果の把握については GPA 以外の方法が無く、アセスメント・テストや学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生、就職先への意見聴取を実施すべきである。(EM)
項目 No. 0406	IR データを日常的に柔軟に入手できるシステムの構築。例えば Tora-net学修ポートフォリオに組織に確認可能な、柔軟かつ多機能のダッシュボードを実装する。最低限、毎年度の「教育・研究活動に関する実態資料」の冊子をデータベース化する。(EM)
項目 No. 0406	ルーブリック評価の実施状況の点検と評価方法の継続的な見直し。(EC)
項目 No. 0406	学習成果を客観的に測定するシステムの構築。(EL)
項目 No. 0407	学びについての調査（卒業時）の共有。(EA)
項目 No. 0407	教育改善システムの円滑な実施のための教員間の連絡調整の恒常化。(EC)
項目 No. 0407	IR データの活用。
項目 No. 0407	学習成果に関する一面的でない重層的な（短期・中期・長期の）定義づけと評価指標の設定、それに基づく評価結果を迅速に教育課程に反映できる柔軟な仕組みの構築、入学年度主義の緩和。(EM)
項目 No. 0407	情報工学科の本領であるプログラミング教育について、現在最も使用される率の高いプログラミング言語の教育方法を検討していく。(EP)
項目 No. 0407	工学部の重点目標設定に基づく学科重点目標を設定する。(EL)

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0407	2018 年度の JABEE 認定時の指摘を踏まえた目標の確認方法の見直し、教員間の連絡調整の恒常化等について、カリキュラム検討委員会、教育支援検討委員会で検討を行なっている。(EC) 2018 年度に JABEE によるプログラム継続認定審査を受審し、結果として継続認定がなされた[0203g] [0203h] [0203i]。 前回の詳細点検で、入試種別の学生の成績分布、進級、退学などの実績を各学科教務委員会において把握することを改善・向上項目としてあげていた。進級、退学の実績については、教員間で共有するようになり、現状問題はないと認識している。入試種別の学生の成績状況については、GPS-Academic等の有効活用が考えられる。(EA) アドバイザーボード会議議事録（2020, 2021 年度は会議開催が困難であったため、メール会議のコメントのまとめ）を学科教室会議で報告し、外部評価を学科構成員で共有した。また、すべての学科専門科目について、授業期間終了時に学習達成度評価アンケートを学生に対して実施し、その結果に基づいた改善への取り組みを行っている。学科独自の FD 活動として、遠隔講義スキルアップのための講演会や FD オンデマンド講義の視聴を行った[0203b] [0407a]。(EK) 0407 プログラム系科目について、今後のカリキュラム内容変更を見据えて、プログラミング言語に関するアンケート調査を行い、教室会議において情報共有が行われた[0407e]。(EP) 0407 以前の課程変更で回路系科目を廃止した悪影響について意見があり、回路系科目を新設する教育課程変更を申請した[0407f]。(EP)

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0406	アセスメント・テストの実施方法などを検討していく。(EM)
0406	ルーブリック評価の実施状況を踏まえた継続的な見直し。(EC)
0406	大学が収集する全ての IR データが活用しやすい形態で教育現場に提供されることが先決であ

	る。(EM)
0407	教育改善システムの円滑な実施のための教員間の連絡調整の恒常化(EC)
0407	実験系科目・プログラム系科目の内容検討をワーキンググループベースで引き続き行う[0407b]。(EP)
0407	IR データ活用(EL)

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 授業その他の費用や経済的支援に関する情報を提供していますか。	A
		(4) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(5) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(6) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1)入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IRデータも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	(1)学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施して、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0501	DP、CPを踏まえたAPを設定し、大学のHP、入学案内に公表している。APを定期的に更新する仕組みが入学センターにあり、センターからの依頼を受け学科会議で審議している[0501a]。
0502	学生募集および入学者選抜制度については、入試要項を定め、工学部入学者選抜委員会、全学の入試・選抜委員会で、透明かつ公正な選抜が実施されている。学費や奨学金などの情報は大学のHPで公表されている[0502a]。推薦入学者等に対する入学前教育の実施などAPに基づく教育課程の編成を行っている。ただし、APと入試形態の整合性、CPと学生募集方法、入学者選抜方法の連関性は必ずしも明確でない[0502a][0502b]。入試方針への学科の意向の反映や、学部内の情報共有については改善の余地がある。
0503	定員設定を行い、定員管理がなされているが、収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応には改善すべき点が残されている[0502b]。入試・選抜委員会が組織され、入学センターで適切に運営管理されている。教授会にて各種データを確認して状況を把握している[0503a]。ただし、女子学生比向上に向けた広報活動や、ST比、点検・評価に資する個別情報・IRデータの学科との情報共有については改善の余地がある。
0504	教授会にて各種データを確認して、APに基づく入学者選抜を公正に実施している。新入生に対して「フレッシュマンテスト」や、「入試状況調査アンケート」を実施し、教授会で情報共有・議論を行っている[0504a]。外部評価委員会である「アドバイザリーボード会議」においても現状報告のうえ意見聴取を行い社会的ニーズを踏まえた学生募集であるかの検証を行っている[0203b]。ただし、点検・改善に資する個別情報・IRデータが学科に提供されていない点には改善の余地がある。
長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0502	推薦入学者等に対し、入学前情報提供と称して入学前教育を行っている。さらに、提出物に対して教員コメントを付し、入学予定者へのフィードバックを3回行っている[0502c][0502d]。(EL)
項目 No. 0504	推薦入試において、APに基づく人材確保のための選考基準の見直しを実施。

項目 No. 0504	数学のフレッシュマンテストにおいて入試種別ごとの得点分布を検証し、学生募集戦略、選考基準の見直しに反映している[0504b]。
項目 No. 0504	2021年度は推薦入学者の割合が適正であったと判断される。(EP)
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No.	
項目 No. 0502	AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の連関性に関する明確化。
項目 No. 0502	教育課程・学修成果の向上のためには教育課程を担う学科の方針が入学選抜により大きく反映されるべきであるが経営上の判断も重要となるため困難であると考えられる。(EM)
項目 No. 0503	学園ビジョンを鑑み、女子学生の入学率が高くなるよう広報活動などの努力・工夫が必要である。(EC)
項目 No. 0503	学科における実質 ST 比(674/16≒42, 2021 年度)の大幅改善[0503a]。(EL)
項目 No. 0503	収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応策
項目 No. 0504	学生受入れの適切性の検証に GPS-Academic等の活用が考えられる。(EA)
項目 No. 0504	推薦入試の学力レベルを保持する必要がある。(EP)

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0502	各種入試制度とその入試要項の確認と見直し、公正な入試選抜の実施、および定員管理について入学センター会議、入学者選抜委員会での検討を行っている[0502a]、[0502b]。
0504	少子化に伴う入学時の学力を維持するための方策と入学前教育が必要である。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0502	AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の連関性に関する検討とその明示。
0503	収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応策の検討と実施。
0503	学科における実質 ST 比の改善（教員人事の推進）。(EL)
0504	受験生及び社会ニーズの動向を踏まえた学生募集および入学者選抜に関する継続的な検証と改善。
0504	GPS-Academic等の IR データの活用を検討する。(EA)

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮	B
		(3) 教養教育の運営体制を整備していますか。	A
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD 活動を組織的に実施していますか。	B
		(2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価し、その結果を活用していますか。	B
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>0602</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事審議会での資格審査を通じて、適切な専任教員数の確保、教育理念・目的を実現できる教員組織の編制に努めているが、改善すべき点もある[0602a]。 ・教室会議・専攻会議に続いて随時開催する「学科人事委員会」が教員組織の適切性に関する議論の場となっており、専攻・学科の教員構成（年齢や分野）、学科人事計画などを策定し、点検・検討を行っている[0602a]。(EK) ・JABEE に対応した教員組織の適切性についての自己点検・評価を行っている学科もある[0203a]。(EC) ・教養教育は、全学の間人創成総合教育センター、工学基礎教室などで適切に運営している[0602b]。 ・教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保が必要。[0602c][0602d] <p>0603</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員人事関連規程が整備され、昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化し明確にしている。適切な手続きによる運用が行われているが、教員人事の適切性に関して改善の余地がある[0602a][0603a][0603b]。 ・教授会においてポイントの見直しを行っている[0603c]。 <p>0604</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育・研究・社会活動については教員活動重点目標・自己評価シート等で自己評価を実施している[0604a]。 ・教育活動顕彰制度受賞者による講演会を工学部 FD 講演会として行い、教育活動の改善等に役立てている[0404f]。 ・研究成果を礎にマスコミを利用した情報発信を行う教員もいる[0604b]。 <p>0605</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の適切性についての自己点検・評価に取り組んでいるが、その成果が改善に必ずしも結びついていない[0203d]。 	
<p>長所・特色 《箇条書き》 * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0603	昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化し明確にしている[0603b]。
項目 No. 0602	JABEE に対応した点検評価が行われており、その中で、教員組織の適切性についての自己点検・評価も行われている[0203d]。
<p>課題事項 《箇条書き》 * 改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0602	教育理念・目的を実現できる教員組織に関する点検と改善。
項目 No. 0603	教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保。
項目 No. 0605	教員組織の適切性についての定期的な自己点検・評価と改善の取り組み。[0605a][0605b]

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0604	2021 年度応用化学科・応用化学専攻 FD 講演会では、「創成実習の新しい取り組み」と題した講演会を実施し、コロナ禍において企業に向く実習が難しい状況下で、学内実習と企業における議論のハイブリッド方式の有用性について理解を深め、情報共有した[0604c]。(EK)

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0602	教育理念・目的を実現できる教員組織に関する継続的な点検、検討と改善。
0603	教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保を図る。
0603	若手教員の確保。(EC)
0604	FD 活動の活発化とその点検・評価結果に基づく教員の資質向上の取り組みを推進。
0605	教員組織の適切性についての自己点検・評価と、それに基づく改善策の検討。

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 7	学生支援
------	------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 	A
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援 	A
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 	S
		(6) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 	研究科のみ

	(7) インターンシップは十分に実施していますか。 【学士課程】 ・充実したインターンシップの実施 【修士課程、博士課程】 ・実施可能な体制の整備	A
	(9) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0702(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの指導教授制、キャリア・就職担当教員、インターンシップ担当教員において、学生の生活・進路に関する適切な支援を行うとともに、各学期はじめの学年別の個人面談、成績不振者・退学希望者・休学者の把握・指導を実施している。学部生に身近な存在である大学院生を TA や学習相談員として採用し、学生の補習教育を支援している学科もある [0702a]。 ・PSH の時間帯を利用し、教員が輪番制で学生の教育、生活支援を積極的に行っている。その結果に関する情報は学科会議で共有を図る体制をとっている。特に支援を要する学生（障がいのある学生、退学希望者、成績不振の学生等）に対しては必要に応じて教務支援課、学生支援課からのデータに基づき、指導教授を中心に個別面談も含めて適切に対応し、教室会議での情報共有により学科教員全体で修学支援および指導を行っている [0702b] [0702c] [0702d] [0702e]。教室会議における学生の移動の状況と内容の全教員による把握、独自のポートフォリオによる全学生に対する毎学期の個人面談の実施、教員による学習支援室での基礎教育支援を実施している学科もある。 <p>0702(4)</p> <p>PSH の時間を利用するなどして学生の相談に応じる体制の整備、ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動、心身の健康維持・増進および安全への取り組みに関しては学生相談室と連携して対応しており、結果に関する情報は学科会議で共有するなどしている [0702f]。スタートアップセミナーにて、大学で整備されているハラスメント窓口を案内するなどしている学科もある。</p> <p>0702(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科、就職に関するやり方は種々であるが、就職担当を組織化し、研究室ごとの就職状況調査を毎月行う、定期的に就職担当会議を開催する等で学生の動向の早期把握と全教員による情報共有している学科や1年、3年時に学生が将来目標を設定するようにし、学習支援、就職指導に反映する学科もある。 ・求人企業データベースを毎年作成更新して学科の就職掲示板・就職資料室と共に運用しキャリア支援の充実を図っている [0702g] [0702h] [0702i] [0702j] [0702k] [0702l]。これには S/T 比も低くしないと十分な機能を発しない。 ・学科独自の就職キックオフの実施や3年生の秋学期に就職ガイダンスの実施、企業による就職説明会・研究会等の実施や学科独自の就職説明会、OB の講演会、留学生向け就職研究会の実施を行っている学科もある。いずれも学科の共通室が、学生への窓口やデータの集計、教員間連携のハブ機能などの重要な役割を果たしている。 <p>0702(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業としてのインターンシップ科目受講、企業からの個別のインターンシップ情報を学生に提供して参加を促している。 ・実習授業での企業訪問やインターンシップを行っている学科もある。 ・Google Classroom 内のクラスとして「学科就活情報」を立ち上げ、学科・専攻の就活情報・インターンシップ情報を集約し、リアルタイムで閲覧できる体制を作り支援を行っている学科もある [0702m] [0702n] [0702o] [0702p]。

0702(9) 資格試験のための講座開講や、同好会設置により自由な発想で資格支援、技術スキル涵養の機会を提供している学科もある[0702q]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	各学期はじめの学年別の個人面談の実施。
項目 No. 0702	学科公認の同好会、電気工事士資格講座を設置[0702q] (EL)
項目 No. 0702	大学院生によるCAD・学習相談員制度[0702a] (EA)
項目 No. 0702	卒業生による講演会（実務セミナー）[0702m] (EA)
項目 No. 0702	学科独自の就職キックオフ・企業説明会、研究会の実施。[0702p] (EK)
項目 No. 0702	学科独自のキャリア支援・就職指導体制を構築・運用している[0702g][0702h][0702i][0702j][0702k][0702l]。(EM)
項目 No. 0702	退学希望者の保護者との面談においては、教員が2名で対応する体制を学科として基本ルールとしている。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	個人面談結果、設定した将来目標についての教員間での情報共有の徹底とよりの確な支援。
項目 No. 0702	学生の多様化に対応するための補習教育・補充教育について具体的に検討していく。
項目 No. 0702	退学に直結する「プログラミングにおけるつまずき」、「実験レポートの作成力の不足」に対する補習教育、補充教育の実施。
項目 No. 0702	学科のS/T比が高く、学生への支援が十分になっていない可能性がある。
項目 No. 0702	成績不振学生への早期対応と不振要因の分析・抽出。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702	学習支援、就職指導に反映するため、2018年度より、1年次のスタートアップセミナー、3年次の部門創成Aの講義に際して、学生に将来目標の設定を求めることとした。
0702	プログラミング学習支援、レポート作成力向上のための学科独自の学習支援室の開設を検討している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	個人面談結果、設定した将来目標についての教員間での情報共有の徹底とよりの確な支援。
0702	補習教育・補充教育の具体的な方法について検討する。
0702	学生支援の充実のため、学科のS/T比を下げ、大学平均・学部平均に近づける。(EM)
0702	成績不振学生には出来るだけ親身に対応し、学生相談室との連携を図る。(EA)

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>0802 教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実については、中長期予算票および学部等重点計画案を策定し、学長ヒアリングを受け、施設・設備の充実に向けた検討と設備更新を依頼している [0802a][0802b]。</p>	
<p>0806 安全管理委員会、学科外の委員による外部評価委員会、非常勤講師懇談会、および卒業時アンケートを通じて教育研究等環境の適切性や安全性について評価をいただき、学科会議にて情報共有を行った上で改善に努めている [0203b] [0406i] [0806a] [0806b]。学科授業科目のコロナ対応に関しては、講義形態に応じた感染対策を各学科会議にてしている [0102a]。また、複数の学科・専攻が共同で実験室を使う等の対応をしている。</p>	
<p>長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0802	材料構造実験施設内の使用していない柱の撤去を行い、学生が安心安全に実験できる環境を整えた [0802c]。
項目 No. 0802	実験・実習室の共同利用（例：工学デザインルーム、ものづくり実習室、SCOPE など）
項目 No. 0806	外部評価委員会による評価により改善を行っている [0203b]。
項目 No. 0806	学科独自の「安全管理委員会」による教育・研究環境の安全性に関する改善に関する取り組みを行っている [0806a]。

課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 805	教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の更なる充実。
項目 No. 806	教育研究等環境の適切性についての定期的な自己点検・評価とそれに基づく改善。
項目 No. 0806	学科が行った COVID-19 対策に対する学生視点の評価・分析

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0802	各学科において作成した中期予算計画調査票および学部重点計画案の提出を受け、学部長、副学部長、工学部長補の三役と事務室でとりまとめを行い、年度毎の学部内設備更新計画を策定している[0802a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0802	既存施設の点検と、それに基づく老朽化施設、設備の計画的更新。
0806	教育研究等環境の適切性についての自己点検・評価を実施し、それに基づく改善を推進する。
0806	大学の方針に基づいた授業運営形態の対面復帰と遠隔指導スキルの継続的活用のための教育施設設備を拡充する。
0806	対面による実験講義における更なる感染予防・安全対策が必要である。

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2)社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3)地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施して、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0902(2) 積極的に学会活動を行っているほか、多くの教員が企業や研究所（例えば産業技術研究所・中部センター）との共同研究を推進している。その活動は大学企画室、研究支援課等に年次報告し、「教育・研究活動に関する実態資料」が大学企画室から発刊されている[0902a]。 社会連携では、2019年6月にHack U中部大学をYahoo! Japanと共催したことを始め、学生が中心となって企画、運営にあたる行事の導入を積極的に行っている[0902b]。</p> <p>0902(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COC+事業に積極的に参加し、地域に貢献する研究活動を行うとともに、地域創成メディエーターの取得を奨励している [0902c]。 ・ 所属教員を講師とした出前講義を学科 Web サイトで募集や高大連携の模擬講義の実施している [0902d]。 ・ 小学生向け「ジュニアセミナー」の工学部教育による講座は、毎回人気を博している[0902e]。 ・ 学科科目をエクステンションカレッジに開放している [0902f] ・ 春日丘中学校へ学部生および院生を派遣し、ロボット部の支援を行っている[0902g]。 ・ 高校生向けのロボットコンテストである中部大学学長杯争奪CU-Roboconを継続的に学部行事として実施している。この取り組みはWRO Japan 全国大会の公式予選会として位置づけられている [0902h]。 ・ 地域交流の一環として、毎年中部大学大学祭にて創造理工学実験教育科の教員および科学・物理実験会(SPE)の学生で「おもしろ科学教室」を開催し、地域の住民や子ども達に、実際に講義で実施している実験の一部を体験してもらい、実験の楽しさ・面白さを広めているが、2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できていない[0902i][0902j]。 ・ 社会人教育として勉強会を開催し、学生の参加も促している[0902k]。 ・ 国際交流に関しては、学科毎の特性を活かし、例えばインドやネパール等、現地での実習や研究インターンシップを含めた海外研修を行ってきたが、コロナ禍により一部をオンラインに切り替えて実施した [0902l]。 ・ 工学部との部門間協定および大学間協定に基づき、インドや台湾など様々な国からの特別研修生を積極的に受け入れている[0902m][0902n][0902o]。 ・ これらの社会貢献の適切性や効果は、各学科会議で点検、検証している。[0102a]

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0902	COC+に基づく学生による学内資格の取得の推進している[0902c]。
項目 No. 0902	国際交流提携を推進、学生の受入に積極的に取り組んでいる [0902m] [0902n] [0902o] 。
項目 No. 0902	CU-Robocon をWRO Japan 公式予選会として毎年開くことで地域貢献をしている[0902h]。
項目 No. 0902	現在の航空機製造の現場を担う社会人に向けた「航空機産業製造人材育成講座」を開催し、地域に貢献している[0902k]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0902	教員が個別に実施している地域貢献活動に関する情報の相互共有
項目 No. 0902	オープンカレッジの受講者が例年少ない点が危惧されている。
項目 No. 0902	国際交流や研究活動への取り組みが一部の教員に偏りがある。
項目 No. 0902	感染症が継続するなど海外渡航不可の場合の次善策が必要。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0902	学期はじめのオリエンテーション等で学生に対して、地域貢献活動を通じて学内資格を取得するよう推進している。
0902	各教員、それぞれの関係学会で研究発表や学会組織運営を積極的に行っている。
0902	教育研究活動への取り組みを全教員が活発に取り組むようにする。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	教員が個別に実施している地域貢献活動に関する情報の相互共有。
0902	オープンカレッジの受講者数が増えるように科目の魅力を周知する方法を検討する。
0902	教育研究活動をWEB、SNSを通じて積極的に発信する。
0902	ヨーロッパ研修の代替となる有益な研修案を検討する。(EA)
0902	人事を含めたさらなる教育研究成果の社会還元力の向上。(EL)
0902	教育研究活動をアピールする機会を全教員で公平に分担することで、教育研究の質向上を図る。

2022 年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	2020 年度より Zoom にて工学部教授会を実施し、会議前にデジタル化した資料を全構成員に配信し、ペーパーレス化と新型コロナウイルス感染症対策を行っている。工学部教授会、入学者選抜委員会等は年度始めに年間開催日程を教授会で周知し、工学部教職員専用ホームページでも公開している。会議終了後に議事録を作成し、構成員に確認のうえ起案決裁を取っている。また、工学部教授会、各種委員会で必要に応じて教育研究活動の検証を行うとともに、適切に議事録を作成している [1120a]。
1120	2020 年度以降、工学部主任会の機能を教授会に統合し、組織としての透明性が向上され、より確実な情報伝達が可能となった。2021 年度末には工学部長による学部内委員会の統廃合を進める方針決定があり、理工学部設置に併せて委員会、各種業務、業務分担についても今後見直しを図る [1120b]。
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	教授会資料のペーパーレス化を推進するとともに、会議前にデジタル化した資料を全構成員に配信。
項目 No. 1120	工学部主任会の機能を教授会に統合し、組織としての透明性が向上され、より確実な情報伝達が可能となった。
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	対面会議のペーパーレス化を図る。
項目 No. 1120	学部内委員会の統廃合を進める。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	* 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	--------------------------------------------

1120 工学部教授会、各種委員会が必要に応じて教育研究活動の検証を行っている [1120a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	教育研究活動、管理運営に関する定期的な点検・評価とそれに基づく継続的な改善の推進。
1120	学部の組織再編とアフターコロナを踏まえた組織体制・各種業務・業務分担見直しを行う。

2022 年度（対象：2019-2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部
--------	-----

基 準	学長重点項目
-----	--------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
特 03	アセスメント・ポリシーに基づき、学修成果を適切に把握・評価し、3つのポリシー（DP・CP・AP）を踏まえた教育活動の検証・改善を行っていますか。	アセスメントテスト（GPS-Academic）、学生アンケート（学びに関する調査）、学生の学修動向（標準修業年限卒業率、退学率、GPA）関連資料等を検証し、入学者の選抜方法の見直し、学修成果の向上、教育課程の改善に活用していますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
特 03	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント・ポリシーに基づき、学習成果を3つのポリシーを踏まえて機関（大学全体）レベル、教育課程（学部・学科）レベル、科目（授業）レベルで検証・改善を行っている [特 03a]。 GPS-Academic や学びに関する調査結果を日常的に入手したり分析することのできる仕組みは存在しないが、大学から適宜提供されるアセスメントテスト、学生アンケート、学修動向関連資料等を検証し、学科会議等において注意すべき学生に関する情報共有、アセスメントテストの学生面談カルテを個々の学生の指導担当教員が保管し、面談、指導に利用し、ポートフォリオ入試における実習内容の変更などを実施している [特 03b] [特 03c] [特 03d]。 授業期間終了時にすべての学科専門科目について「学習達成度評価アンケート」を受講学生に対して実施し、卒業時には4年間の学修に対するアンケートを含む「卒業時アンケート」を実施し、それらの結果に基づいた改善への取り組みを行っている学科もある [0406g] [0406h]。 アセスメントテスト、学生アンケートなどの詳細な活用方法までは議論が進んでいない学科も多い。 学生の学修動向を定期的に分析し、教育課程や教育方法に反映させる仕組みが必要である。
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 特 03	学科会議において注意すべき学生に関する情報共有を行っている [特 03c]。(EC)
項目 No. 特 03	授業期間終了時にすべての学科専門科目について「学習達成度評価アンケート」を受講学生に対して実施し、卒業時には4年間の学修に対するアンケートを含む「卒業時アンケート」を実施し、それらの結果に基づいた改善への取り組みを行っている [0406g] [0406h]。
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 特 03	学生の学修動向を定期的に分析し教育課程や教育方法に反映させる仕組みの実質化。
項目 No. 特 03	アセスメントテスト、学生アンケートの活用 [特 03a] [0406g] [0406h]。
項目 No. 特 03	大学発行の実態調査により退学率等の把握は行っているが、その他の視点については十分であるといえない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
	<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議において、注意すべき学生に関する情報共有を行っている。 ・学生の学修動向等を評価し、カリキュラム改訂を行うWGを立ち上げた[特03e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
特03	学生の学修動向を任意の様々な視点から統計処理・可視化できるダッシュボード機能等の実装。
特03	アセスメントテスト、学生アンケート活用、共有。

2022年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0101	a	基本理念・使命・教育目的 https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/	○
	0101	b	3つのポリシー 工学部 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/engineering/	○
	0101	c	学生便覧(2021)	○
	0101	d	工学部履修ガイドブック(2021)	○
	0102	a	各学科会議議事録	△
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	中部大学の内部質保証 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/quality_assurance/	○
	0203	b	2021 年度工学研究科自己点検・評価シート	○
	0203	c	2020 教員活動重点目標・自己評価シート(様式1)	○
	※0203	d	外部評価委員会議事録(EA)	○
	※0203	e	アドバイザーボード会議(EK)	○
	0203	f	非常勤講師懇談会議事メモ(EC)	○
	0203	g	教育改善システム(EC) https://www3.chubu.ac.jp/civil/feature/system/	○
	0203	h	(応用化学科)2018 JABEE受審(文章編)応用化学スペシャリストコース	△
	0203	i	(都市建設工学科)審査結果 日本技術者教育認定機構	△
	0203	j	(建築学科)審査結果 日本技術者教育認定機構	△
	0203	k	(応用化学科)審査結果 日本技術者教育認定機構	△
	0203	l	中部大学の自己点検・評価委員会規程	○
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	2017年度第9回工学部教授会議事録	○
	0403	a	科目ナンバリング表 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/kamoku_no_2021.pdf	○
	0403	b	工学部各学科カリキュラムマップ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/	○
	0403	c	スタートアップセミナー(2022年版) 建築学科	○
	0403	d	工学部教務委員会議事録	○
	0403	e	学科の特色 都市建設工学科 中部大学	○
4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	中部大学シラバスの一例(社会と工学) https://toranet.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(risyunen)=2022&value(semekikn)=1&value(kougicd)=12709&value(crlumcd)=01010000002016	○
	0404	b	シラバス点検依頼文書2022	○
	0404	c	2019年度自己点検・評価「全学的課題」対応策 進捗状況確認表①	○
	0404	d	授業評価実施要領	○
	0404	e	FDフォーラム・講演会 https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/index.html#forum	○
	0404	f	工学部FD講演会開催のお知らせ	○
	0404	g	EAシラバスの例	○
	0404	h	履修の手引き	○
	0405	a	成績評価の共有例(建築工学演習)	○
	0405	b	オハイオ大学長期研修単位認定について	○
	0405	c	卒業研究のシラバス(建築学科)	○
	0405	d	卒業研究審査基準と様式(情報工学科)	○
	0405	e	2019年度自己点検・評価「全学的課題」対応策 進捗状況確認表②	○
	0405	f	卒業研究成績入力依頼	○

(様式1-4)

	0405	g	2021年度第11回工学部教授会議事録(2022.2.28)	○
4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0406	a	Tora-Netについて	○
	0407	b	一級建築士指定科目に該当する開講科目一覧 (EA)	○
	0406	c	2021年度第12回教授会議事録(2022.3.11)	○
	0406	d	卒業発表による学習成果把握	△
	0406	e	指導教授による面談制度	○
	0406	f	シラバスの一例	○
	0406	g	卒業研究ルーブリック (EC)	○
	0406	h	達成度評価アンケート	○
	0406	i	卒業時アンケート (EK)	○
	0406	j	学習・教育到達目標対応表 (JABEE)	○
	0406	k	卒業研究シラバス例	○
	0406	l	非常勤講師・勤務先 (EA)	○
	0407	a	学科独自のFD委員会・学科教務会議	△
	0407	b	教育活動重点目標・自己評価シート	○
	0407	c	情報工学科卒業論文	△
	0407	d	科学研究費補助金申請書	△
0407	e	2021年度 第3回 情報工学科教室会議 議事録	○	
0407	f	2023年度教育課程変更について	○	
5. 学生の受け入れ (NF0501)	0501	a	AP掲載内容の一部見直しについて (EA)	○
	0502	a	入試案内 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/	○
	0502	b	工学部入学者選抜委員会議事録	△
	0502	c	入学前情報提供の概要およびスケジュール	○
	0502	d	教員コメント依頼文 (EL)	○
	0503	a	2021年度 在籍者数 (学部)	○
	0504	a	2021年度入学試験結果	○
	0504	b	数学フレッシュマンテスト結果分析	△
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	人事審議会資料	△
	0602	b	工学基礎教室会議議事録	△
	0602	c	教員当たりの学生数 (2021年度)	○
	0602	d	中部大学 専任教員と非常勤教員の担当時間数 [2021年度]	○
	0603	a	教員組織の人事に関する細則	○
	0603	b	工学部ポイント表	△
	0603	c	2021年度第10回工学部教授会議事録(2022.2.16)	○
	0604	a	2021年度教育活動顕彰制度 工学部実施要項	○
	0604	b	メディアに紹介される中部大学	○
	0604	c	学科FD講演会資料、FD活動実績報告書	△
7. 学生支援 (NF0701)	※0702	a	(建築学科)CAD学習相談員表	○
	0702	b	障害のある学生への支援	△
	0702	c	学生ポートフォリオ	○
	0702	d	学習支援室案内 (EU)	○
	0702	e	(電気システム工学科・電気電子システム工学科) 質問の時間について	○
	0702	f	スタートアップセミナー資料	△
	0702	g	(機械工学科)就職担当者会議議事録	○
	0702	h	(機械工学科)就職ガイダンス開催告知1	○
	0702	i	(機械工学科)就職ガイダンス開催告知2	○
	0702	j	(機械工学科)求人情報掲示開始通知	○
	0702	k	(機械工学科)企業面談担当割当表	○
	0702	l	(機械工学科)求人情報データベース案内資料	○
	0702	m	(建築学科)実務セミナー	○
	0702	n	EK&TK就活情報2022	○
	0702	o	(電気電子システム工学科)求人情報	○
	0702	p	(応用化学科) 学科内企業説明会の案内	○

	0702	q	(電気電子システム工学科)同好会活動の概要	○
8. 教育研究等環境 (NF0801)	※0802	a	2019年度中期予算計画調査表	○
	※0802	b	2021年度以降における教育・研究に係る学部重点計画案	○
	0802	c	18号館整備報告	○
	0806	a	(応用化学科)安全管理委員会2020	○
	0806	b	(建築学科) 非常勤講師懇談会議事録	○
9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	a	高等教育推進課刊行物 https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/university-education/publication/	○
	0902	b	Hack U 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/computer_science/news/25648/	○
	0902	c	地域創生メディエーター https://www3.chubu.ac.jp/documents/innovation_mediator/news/25375/25375_b155271e6eb1f7a445ee0171579a8c5a.pdf	○
	0902	d	(応用化学科)出前講義	○
	0902	e	ジュニアセミナー2021秋案内	○
	0902	f	中部大学エクステンションカレッジ 2021年度 秋学期 https://www.chubu.ac.jp/community-extension/lifelong/ext-college/	○
	0902	g	春日丘中学校ロボット部への学生派遣	○
	0902	h	中部大学学長杯争奪LEGOロボットコンテスト https://www3.chubu.ac.jp/cu-robocon/	○
	0902	i	科学物理実験会チラシ・活動報告	○
	0902	j	科学物理実験会 (大学HP)	○
	0902	k	航空宇宙人材育成講座 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jisedai/aerospace-manufacturer2021.html	○
	0902	l	Virtual English Class 2022.	○
	0902	m	チャンゲン大学との部門間交流協定の締結について	○
	0902	n	チャンゲン大学からの特別研修生の受け入れについて	○
	0902	o	インド工科大学からの特別研修生の受け入れについて	○
11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	工学部教授会議事録	○
	1120	b	2021年度第13回工学部教授会議事録(2022. 3. 16)	○
特. 学長重点項目 (特03)	特03	a	中部大学アセスメント・ポリシー https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/assessment-policy/	○
	特03	b	GPS-Academic学生面談カルテの各学科における活用	○
	特03	c	2021年度第9回学科会議議事録(EC)	○
	特03	d	ポートフォリオ入試実習内容(0zobot)	△
	特03	e	【メール】カリキュラム改訂WG立ち上げ	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管